あたりまえの日常の大切さ

てんしゃば

てんしゃばは、来年度で20周年を迎えます。利用者はホームあすかA・B・Cにそれぞれ5名ずつ、ホームそらに4名の方達が生活しています。皆さんですが、協力し合って楽しく暮らしています。

今年5月から新型コロナが5類になり、久しぶりに外出等も緩和され、感染対策をしながらですが余暇活動を楽しめるようになりました。各々の希望が叶うべく、日帰りや一泊での旅行を計画し、遠くは草津温泉へ一泊してきた方もいます。男性利用者のホームそらでは月一回の余暇活動を、4名の利用者と職員で話し合い、行き先を決めています。また、地域に根付いた活動も欠かさず、地域の秋祭りや市民一斉清掃にも参加しました。緩和されていく中でも、利用者の皆さんが自主的にマスクや消毒、手洗い等を続けています。新型コロナが流行した事により、利用者にとって当たり前と思っていたホームで生活するということがどれだけ大切なのかを学ぶことが出来ました。今後も優しく温もり溢れるグループホームを目指して、支援し続けたいと思います。

生活支援員
勤続9年　島田知実

一歩ずつ・・・

ほっと

館林邑楽相談支援センターほっとは現在、相談員14名で、児童から高齢の方まで、約八五〇名の相談支援を行っております。日常生活での困り事などの相談を受け、希望する生活に近づけていけるように情報提供や福祉サービスの調整をさせていただいています。計画作成に関わること以外にも一般相談や虐待防止センターとしての役割など相談内容は多岐に渡るため、すべてがスムーズにいくわけではありません。それでも、初めは不安そうな表情で来所された方が、相談を重ねる内に夢や希望を見つけて一歩ずつ歩み始めている姿に出会えると、私達もやりがいを感じることができます。

ここ数年の間に館林邑楽地区にも多くの事業所が開所しています。障害を持つ方が住みやすい地域を作っていくことも私達の役割の一つです。そのためにも地域の課題を自立支援協議会で取り上げたり、BCP、基幹相談支援センターの設置に関しても福祉だけでなく、医療や教育など様々な機関と連携を図ることが必要になります。少子高齢化や自然災害などが続く中、不安を抱えながらこの地域で暮らす方にとって、「ほっと」が少しでも安心できる存在になれるように、今後も相談者に寄り添いながら共に歩んでいければと思います。

相談員
勤続4年　金本　志穂